

議 題：清華亭の耐震改修工事等について

【その2】清華亭展示物ほか計画検討及び実施設計業務の 経過報告について

(1) 現況評価をふまえた展示物の改善

札幌市および関係者が認識する課題をもとに「現状展示の見直し方針」を策定する。

①解説および案内サイン不足箇所の解消

②洋間の展示見直し変更

- ・既存展示什器を撤去 展示物を廊下に移動して掲示
- ・模型は老朽化の為修繕・更新せずに代替展示を作成

③和室の展示見直し変更

- ・掛け軸の説明追加、芸術作品は洋室へ移動

(2) 新たな展示物の追加

関係者へのヒアリング結果を踏まえ、新たな展示物を計画。

①解説展示の追加

概要説明、建物の構造や特徴、庭園の案内、周辺情報、子供向けの説明などを軽量で移動可能な掲示物で作成

②ガイドさんの知見をふまえた解説リーフレットの作成

既存資料の「ようこそ清華亭」をリニューアル。

希望者だけが手持ちで見る配布方式の詳細解説

〈清華亭関係者〉 ボランティアガイド 後藤氏
 受付・警備担当 山崎氏、二丹田氏
 施設利用者 (有)ファンタスモ 岡野氏(写真撮影)

コメント	対応方針
(1) サイン及び展示について必要と感じるところ	
●屋外の大樹木(ハルニレ(一番古い)、ヨーロッパクロマツ、イチイ)…由来なども合わせて説明する立て看板的なもの。このほか、敷地内の樹木に樹木銘板をつけたほうが良いのでは？	○樹木マップ作成
●洋間の額「清華亭」…解説が必要	○解説スタンド作成
●ガラス・鋳造作品の展示について、タイトル、作者や解説も全くない。作品の展示として粗末すぎる。(銘板や、ケースに入れるなど、展示の変更が急務)	○解説パネル等製作
●濡れ縁からの景色の解説…今は見ることのできない当時の清華亭から見える景色を再現。(例として)解説表示板の設置。VRで視覚的に再現、体感していただくとか。	再現展示検討 (別途業務)
●入り口より、順を追った説明の表示があるといいと思う。	対応予定なし
●明治天皇の行幸の際の休憩施設であることを分かりやすく解説してほしい	解説パネル設置予定(別途業務)
●廊下壁面に解説パネルでも良いが、場所があまり広くないので、人が固まってしまうと混雑してしまうかもしれない。	○警備員が誘導して対応
●日中屋内の照明を消していると、開館か閉館かわからないという意見を受ける。入口門に開館・閉館のわかる表示が必要。	○照明は常時点灯、開館・閉館表示製作
●外門より奥に抜けられると思い、立ち入る人が多い。通り抜けできない表示もほしい。	表示設置検討(別途業務)
●現状、館内の手書きで掲出している表示は、きちんと作りたい。	○差し替えて製作
●玄関先の記名…受付が中にあると思い、そのまま入場する人が多い。分かりやすくしたい。	○受付部の表示改修
(2) 見直しが必要と感じるところ(サイン以外)	
●洋間の棚前のガラス間仕切り(フェンス)は外したほうが良い	○撤去する
●模型の清掃・補修(色抜け、樹木植え替え、ほこり取り)アクリルのカバー	○現状維持
●床の間の軸は、清華亭との関連性が薄いので、外すべき。ゆかりの句を描いたものを下げるべきでは？	○現状維持、解説板製作
●洋間の解説什器がなくなるとスッキリしていいと思う。	○改修にて撤去検討
●入り口段差、改善してほしい。石段と框の高さが大きく、つまづく方が多い。特に高齢の方は危ない場面が多い。管理室への段差も軽減できないか。車椅子は論外。バリアフリーに対応したアプローチは可能だろうか？	○改修工事に対応
●(できれば)裸足での入館をやめてほしい。(表示もほしい)	札幌市にてスリッパを配置予定

コメント	対応方針
<p>(3) 来館者への対応</p> <p>【ボランティアガイド 後藤氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●清華亭の説明として、(歴史・建物)文化的価値 ・どのように利用されたか(歴史背景) ・建物の構造的特徴 を要点解説している。 ●来訪者への説明は後藤氏が作成したファイルを活用している。 ●解説したいポイント(場所)に表示がないので、あると良いと思うが、部屋内に点在することになるので、見せ方の工夫が必要か。(説明するには、手元ですぐ見せられる今の形は良いと思っている。) ●ガイドとしては、清華亭がどのような場所でたったかという説明として、明治天皇の行幸の際の休憩施設ということを省くことはできないが、それは建物内で表示解説することではないので、あくまで、ガイドの解説に留めて、歴史背景と建物の構造的特徴(価値)についての表示をすることが望ましいと思う。 	<p>○「ようこそ清華亭へ」パンフレットで対応</p>
<p>【管理・警備 山崎氏、二反田氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●清華亭の見学で訪れた方に対しては、ガイドがいなかった場合などは、どのような(どう使われた)建物なのかという説明を(ボランティアガイドの後藤さんの資料をもとに)簡単に行っている。 ●来館者からの質問で多いもの 「なんのために建てられたのですか?」 「照明(洋間シャンデリア)は何時もののですか?歴史的なものですか?」 	<p>○「ようこそ清華亭へ」パンフレットで対応</p> <p>○清華亭解説パネルへ追記</p>
<p>(4) 施設利用者の観点から</p> <p>【(有)ファンタスモ 岡野氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●写真撮影で清華亭をよく利用している。 ●施設の改修という観点からは、このままの状態をぜひ維持してほしい。改修によって小綺麗になってしまうと雰囲気が変わり、せつかくの歴史的なムードが損なわれてしまいそう。 極端だが、壁のシミひとつもこのままが良いと思っている。 ●立て看板などは写真を撮影するうえでは大変苦勞しており、新郎新婦の立位置で隠など工夫して撮影しております。 重要文化財の性質上、大型の看板等は作成しないとは思いますが、撮影側としては映り込みが少ない方がありがたい。 ●これからも利用し続けたいと思うので、改修の工期もなるべく早く済ませてほしいと願う。 	<p>○考慮する</p>

コメント	対応方針
<p>(5) 類似施設のサイン等の展示</p> <p>【旧永山邸および三菱鉱業寮 指定管理者 行天氏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当時の様子を体験できる空間展示は、来館者にも喜ばれている。 (あくまで永山の話だが、目指す姿) ●サイネージの前でじっくり情報を読む人はあまり見かけません。 ●サイネージの不具合、画面破損があった場合は費用と修理の時間がかかります。(清華亭でも同様の結果が予想される) ●当館の来館者の傾向では、パネルを読む人はあまりおらず、建物の雰囲気(レトロ感)を楽しむ人が多数かなと感じております。体感的に当時見ていたものやことを表す展示、時間を忘れて昔の暮らしぶりを妄想できるような展示ができればなあと思います。(新たな展示のテーマの一つ) ●植栽に関する説明、質問をされることが多い(今回作成するマップの作成根拠)ため、今年は「緑のガイドマップ」を作成、配布した。庭園と一体になった施設はなかなかないので、樹木、草花の解説や植栽の意味、施設を取り巻く風土に触れられるパネル等もあったら良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○類似施設展示例を参考にしつつ、清華亭にあった展示とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネル ・適切なサイン ○利用者の意見を取り入れた実施内容となるよう配慮する。 ○清華亭の植栽マップを作成。

展示・サイン等の考え方

札幌市有形文化財に指定されている「清華亭」は、札幌の最初の公園である偕楽園に、開拓使の貴賓接待所として建てられた施設であり、貴重な開拓使建築の遺構として、これまでに多くの市民や観光客が訪れる史跡の一つである。

現在、敷地内には様々なサインや解説表示が設置されているが、令和6年度までの建物の改修工事と合わせ、表示に関する既存の内容に加え、インバウンドに対応した多言語化を含め、様々な情報提供を行うための展示の整備や、施設全体のサインの設置の検討を行う。

清華亭に関わる方々の意見を元に、本業務のサイン計画についてのまとめを行っていく。

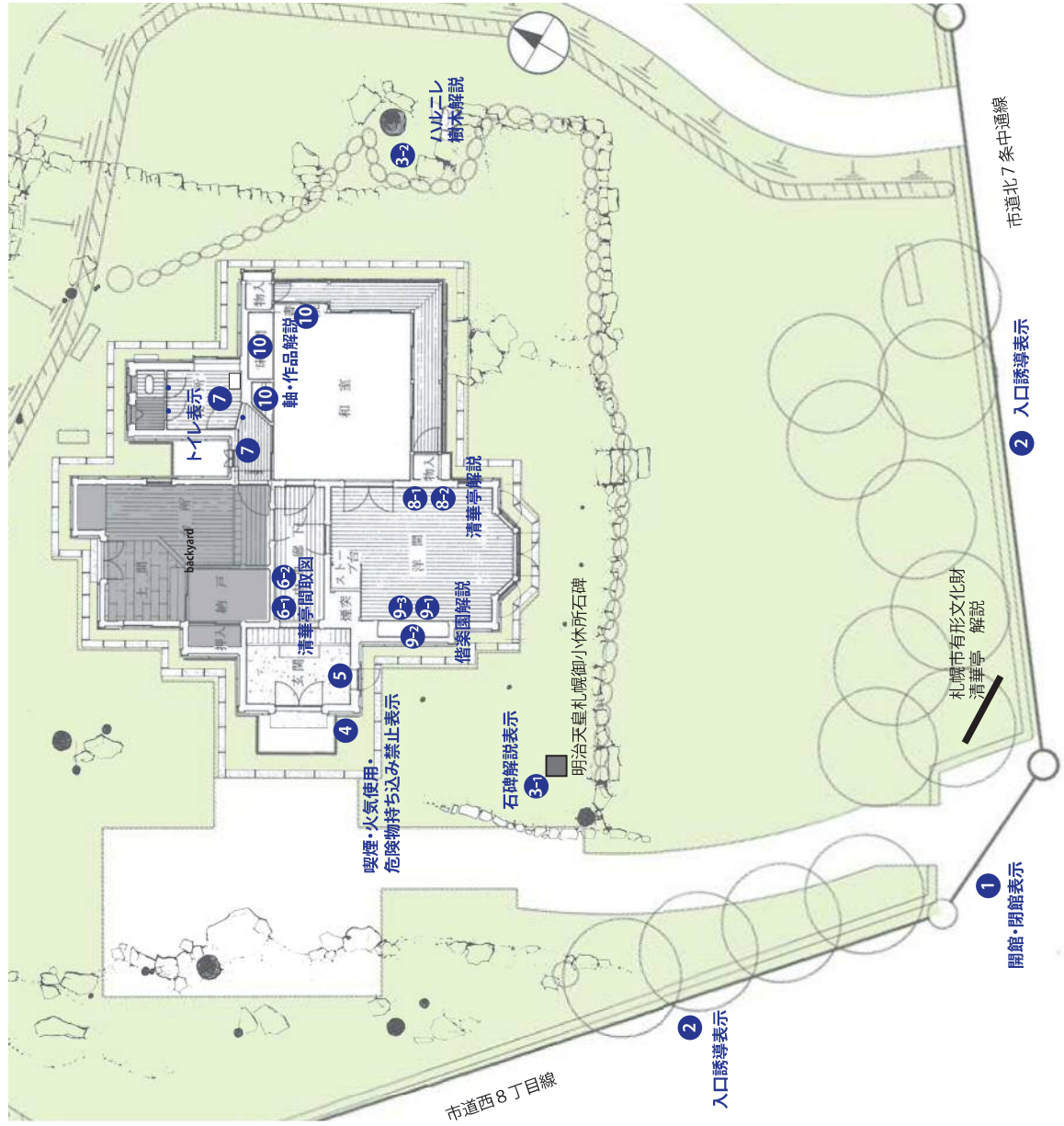
■サイン検討箇所

<屋外>

- 1 正面門 開館・閉館表示
- 2 敷地柵 清華亭入口誘導表示
- 3-1 石碑横 解説表示
- 3-2 建物裏 ハルニレ樹木解説
- 4 玄関横 喫煙・火気使用、危険物持ち込み禁止表示

<屋内>

- 5 玄関 貴名表示 記念スタンプ 感染対策グッズ
靴をぬいでください表示 各種受付表示
- 6-1 廊下 館内案内(既存スタンド)
- 6-2 各種認定書 読みもの(サイドボード内)
- 7 奥廊下 トイレ各種サイン(ピクト)
- 8-1 洋間 「清華亭の概要」他解説パネル
- 8-2 洋間 「清華亭」額 解説
- 9-1 洋間 「偕楽園」解説パネル
- 9-2 洋間 「偕楽園」絵図解説、「清華亭のうつりかわり」年表パネル
- 9-3 洋間 「偕楽園」模型内キャプション
- 10 和室 床の間 軸解説/床脇 作品解説/禁煙表示



サイン改修

1 開館・閉館表示 (正門)



【現状】

門扉が閉まっている時 (閉館時) のみ簡易的な表示

【改善案】

「開館・閉館」表示

門扉の開閉で見えなくなってしまうような位置に表示を設置
和英併記



400×200 アクリル製サインボード
鉄柵に取り付け

2 入口誘導表示 (敷地フェンス)



【現状】

簡易表示 (紙製)

【改善案】

「清華亭」入口誘導表示 (正門を中心に左右各 1 箇所、
計 2 箇所設置 ※配置図参照
和英併記



公園入口

西7丁目通沿い



300×300
アルミ複合板+出力シート貼
サインボード
鉄柵に取り付け

(カラーについて) 板面のイメージを、通り看板のものと揃える。もしくは別案検討

カラー (案)



サイン改修

3-1 石碑解説表示

3-2 ハルニレ樹木解説表示



【現状】 解説表示なし

【改善案】

3-1 石碑の解説表示製作…建立の由来についての解説(文章製作)

3-2 樹木の解説表示製作…一番樹齢の古い木についての解説(文章製作)和英併記

ステンレス製自立型サイン 300×300×h1200

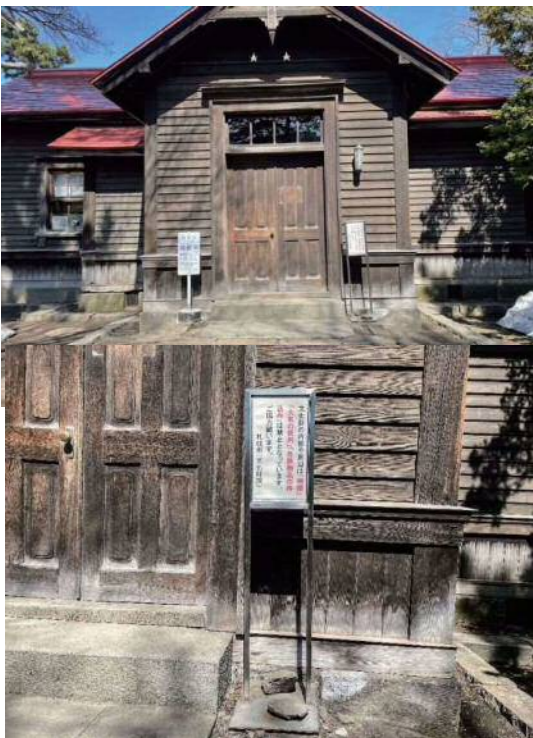
埋設型(簡易コンクリ基礎)

※面板サイズは原稿文字量で変動(～450角程度まで)

※さっぽろ・ふるさと文化百選表示看板の仕様を想定(左図)

設置場所について、石碑周辺は樹木の根等があり、簡易基礎埋設時は場所について確認が必要

4 喫煙・火気使用・危険物持ち込み禁止表示



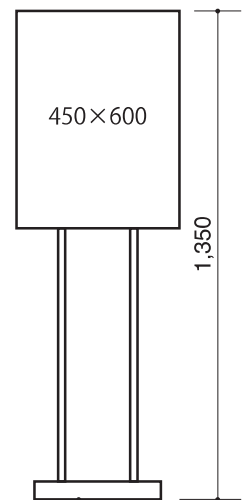
【現状】 開館表示看板・火器等持ち込み禁止表示看板

【改善案】

正面扉を挟んで2箇所の表示を1箇所にまとめる

ステンレス製自立型サイン 450×600(面板)×h1350

置型



ウエイト(コンクリート)入り下台

サイン改修

5 各種受付表示 (玄関)

【現状】

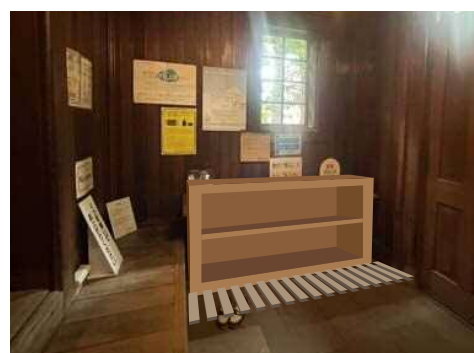
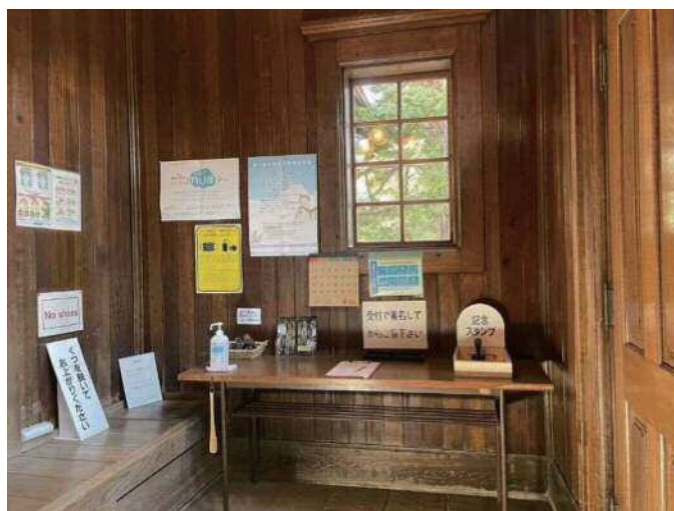
- ・受付記名帳・筆記用具・記念スタンプ台
- ・感染対策取り組み表示、他各種ポスター
- ・アルコール消毒セット
- ・「靴を脱いでおありがとうございます」表示
- ・パンフレットスタンド(小) 等

【問題点】

簡易テーブル上に置く。バラバラと煩雑
玄関たたきの高さが大きく、出入りが困難。
高さの解消、足場の確保が必要。

【改善案】

- 各種表示類を分かりやすく表示
- 観覧者用の下足箱を作成し、その上に各種表示、パンフレット等、整然と配置できるホルダーや枠作りが必要。
- 禁止事項を表示 ●パンフレットホルダー(10種程度)
- スタンプ台
- 和英併記



(例)旧永山邸 玄関



サイン改修

6 廊下

【現状】

スタンドサイン 建物平面図(案内)

サイドボード内展示

北海道遺産表示

北の造園遺産認定書

さっぽろ文庫「豊平館・清華亭」

新北区エピソード史(コピー・読み物)



【問題点】

廊下ということもあり、奥行きのあるケースなどはスペースを狭くしている現状がある。

内容を読ませる展示方法ではない。

【改善案】

- スタンドサイン・サイドボードは撤去または移動
- 壁面に、清華亭の概要・年表等を木軸複合板パネルで作成、吊り掲出。(サイズ:w2400×h1200)
- 内容は現状で洋室に展示しているものを原稿とし、若干見直しを加える必要がある。文章は和英併記とするが、原稿のボリュームによっては、英語版をQRコードから、翻訳版表示への展開も考えられる。



清華亭解説パネル(解説内容案)



建築様式の特徴

サイン改修

7 案内サイン

【改善案】

- トイレ誘導サイン(ピクト)
- トイレサイン
- 禁煙サイン

ピクトのみで、周囲のイメージを損なわない

小さめの表示

※廊下左はバックヤードで、通常は扉を閉めている。

表示がなくても間違って入る来館者はいないので特に表示はしない。



(廊下)トイレ誘導

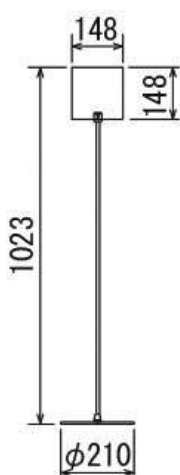


イメージ(例:旧永山邸)

(トイレ)入口ドアに
ピクトサイン



150×150



(トイレ内)ピクトサイン



書院作りの棚の禁煙表示は撤去

サイン改修

8 洋間(清華亭解説)

【現状】

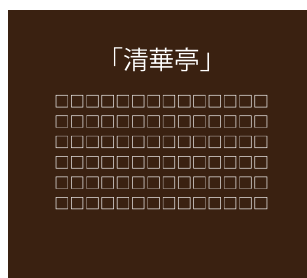
- (1) 展示什器(解説)
- (2) 「清華亭」額

【改善案】

- (1) 展示什器の内容を廊下掲出パネルへ移動し、什器は撤去する。
(※◎解説パネル(新規製作)参照)
- (2) 額の解説パネルの製作
250角程度



撤去イメージ



250×250
複合板出力パネル
スタンドタイプ
(解説内容作成中)

8 洋間(偕楽園解説)

【現状】

- (1) 壁面パネル(偕楽園解説)
- (2) 展示什器(偕楽園解説)
- (3) 偕楽園模型



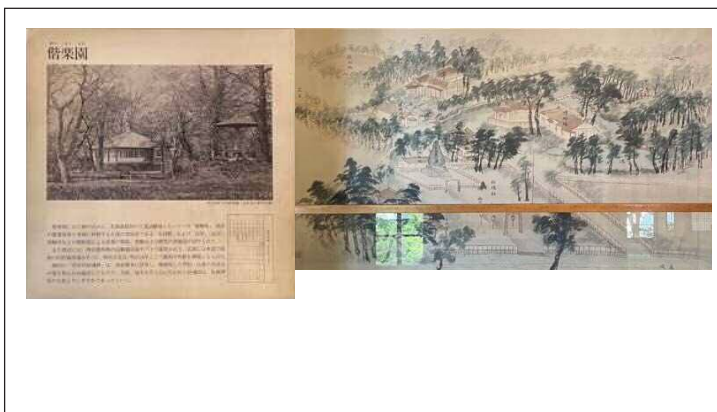
9 洋間(偕楽園解説)

【改善案】

- (1)と(2)の内容を合体させ、壁面パネル解説としてまとめる。
木軸複合板パネルで作成
(サイズ:w1800×h1200)
- 和英併記とする。
- 戸袋前面のガラスフェンスを撤去し
パネルを見やすくする。
棚上を活用してパンフレット等の置く。
- 現状、廊下に設置している
サイドボードを、洋室に移動する。
(設置位置は未定 ※右図は暫定)
撮影等利用者に配慮した位置へ移動する。
中には、鑄造作品(ヌブサムメム)と
解説を入れる。

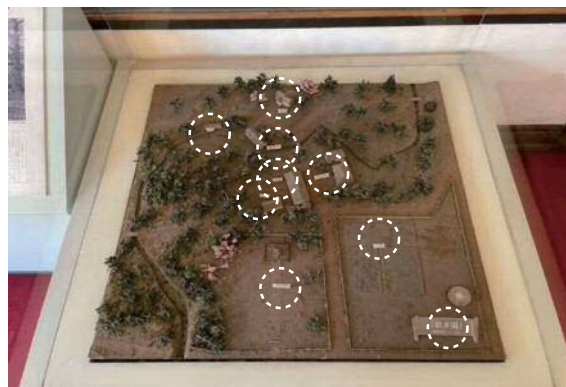


偕楽園解説パネル(解説内容案)



- (3) 偕楽園模型は、老朽化により、汚れ、破損が見られる

清掃・補修について調査の回答として、
本模型は製作から30~40年程度経過しており、
木々のウレタンが剥がれてきている様子。
当時の製作方法から推測すると、のりの粘着性がなくなり
全体的に劣化や剥がれ落ちて、補修は困難な状態。
基盤のベースとなるウレタンも風化の状態が見られる。



施設名称の銘板を新規製作(和英併記)

仮に補修(樹木の植え替え、部分着彩、清掃)出来たとしても、
数年後(短いスパンで)別の場所が剥がれてしまうだろう。
このような理由で、補修は不可能、新規での製作が必要と判断する。

現状のままの展示を続行する場合は、模型をケース収納(アクリルカバー)が必要。(現状はオープン)
名称板を見やすく改修、並びに和英併記とする。

10 和室

【現状】

床の間 軸 解説なし

床脇 作品 解説なし

【問題点】

軸に関しては、内容が清華亭と関連のあるものではなく、展示の是非を確認する必要がある。

(軸の経緯を確認)

作品(ヌプサムメム)の展示場所は

この場所が良いかの是非を確認する必要がある。

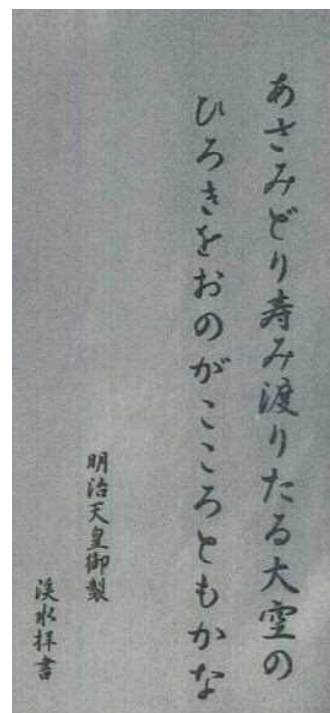


【改善案】

●軸の解説看板 200×200 スタンド看板 軸横に配置

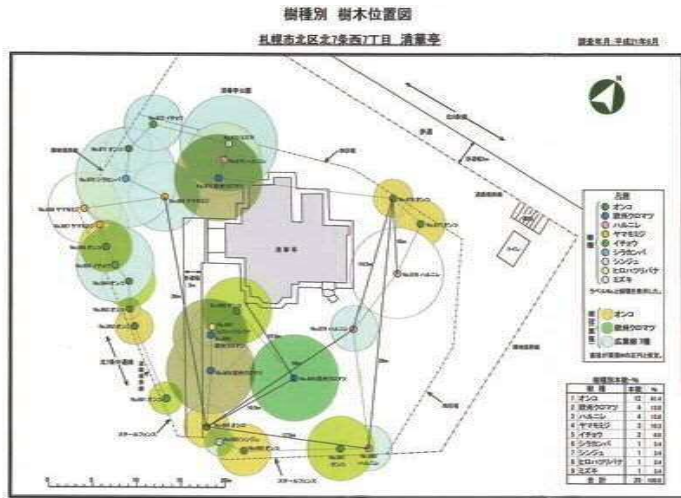
●作品は、洋室に設置のサイドボードに展示、作品の銘板と解説表示を設置

この和歌は、明治37年明治天皇の御製ですが、何処で詠まれたものか、またその謂れなどはわかっていません。「あさみどり」とは薄い緑色、または空色の意味です。「寿み」は「すみ」と読みます。



(1) 庭園の案内

- 清華亭は、「北の造園遺産」に認定されている。
敷地には多くの種類の木々が茂っており、訪れた観覧者からはどのような木々があるのだろうかという質問も多いことから、それらを紹介する樹木マップの制作を行う。



制作イメージ(例:永山記念公園庭園ガイドマップ)



- 持ち帰りができるパンフレットとして制作。 A4サイズ(両面)
周辺情報も紹介する。

(2) 子供向けの解説

- 清華亭を訪れる来館者には、小学生(高学年)、中学生等、歴史学習等で見学に来る方も多い。
子供を対象にした清華亭の解説シートを作成。多く質問に上がるようなポイントをまとめて紹介する。
「ようこそ清華亭へ」の内容をベースに作成する。



北海道遺産おさんぽスタンプラリー：豊平館、時計台など市内の歴史的建物等をめぐるラリー

- パネルやタペストリー等の軽量で移動可能な掲示物を想定するが、展示室内に設置物が増えるので、持ち帰りができるパンフレットを制作し、配布するのが望ましいと考える。



豊平館自由研究企画：ぬりえてちょう(17の天井中心飾りの塗り絵)、豊平館ずかん(質問の答えを探しながら書き込むと一冊の図鑑に)

(3)「ようこそ清華亭へ」(既存リーフレット)のリニューアル

- 「ようこそ清華亭へ」は、展示ガイドのように、わかりやすく清華亭の歴史を説明し、建物のみどころを紹介している。
- 外国人観光客も多く訪れる施設でもあることから、多言語版を必要とする方々が多い。
- 内容のブラッシュアップと共に、多言語化対応したものを制作する。
- パンフレットや館内展示物では説明しきれいていない部分の展示解説を、ボランティアガイドの知見を参考にしながら内容を構成する。

札幌市指定有形文化財

見学者の皆様へ、ようこそ 清華亭へ

1. はじめに

(1) 明治の初めの札幌は？ 1869 (明治2)年 開拓判官高橋義勇による札幌の建設

明治の初め、この辺り一帯(現在の植物園の辺りから北大橋内くらいまで)は、うっそうとした樹木に覆われ、あちこちに自然湧水(湧き水→アイス路で『メム』)があり、その湧き水を源流とした川も流れており、秋には鮭も上ってきていました。当時の札幌の北の端、いわば『札幌の郊外』だったのです。そして北海道は開拓が始まったばかりで、産業も育っていませんでした。

(2) わが国最初の計画的な公園 借来園 (札幌東水戸市にも同じ名前の公園があります)

そこで開拓使は、「産業を盛んにするためのモデル」また「住民の憩いの場」をこの場所につくらせました。

時に1871 (明治4)年、開拓判官岩村通俊(いわむらつとむね)によってこの場所一帯に様々な施設(製物場・工業試験場、育種場・農業試験場、さけ孵化場、博物館、花室など)が造られ、「借来園」と命名されました。今で言うと、いろいろな産業の試験場兼公園です。

明治政府の方針として、1872 (明治5)年、全国各地に公園を造る命令を出しましたが、この借来園はその1年前に、しかも、新たに、計画的に造成された公園。この点で、日本で最初の公園と言う歴史的な価値がある場所なのです。

(3) どうしてここに清華亭？ 明治天皇の小休所

この公園が作られて、北海道の開拓もある程度進んできた1881 (明治14)年に、明治天皇が北海道の開拓の様子を視察に来られることになりました。

解説 天皇がお出でになることを行幸(ぎょうこう)といいます。

ところが、開拓はある程度進んでいるとはいえ、当時の札幌には一般の人たちが泊まる小さな旅館のような建物はありましたが、政府の役人や皇族と言った当時の地位の高い人たちが泊まるホテルのような施設はまだありませんでした。

そこで、開拓使は天皇がお出でになる前の年の1880 (明治13)年に、まず、洋風のホテルを建てました。それが、今、中島公園の中に建っている豊平館(とよへいかん)です。

解説 この豊平館は、北1条西1丁目に建っていましたが、1957(昭和32)年に中島公園に移築されました。

ホテルは建てられるけれども、いろいろな所を視察した時に休憩したり食事をとったりする所もありません。何しろ、この頃の交通手段は馬です。

解説 鉄道は、1880 (明治13)年に、小樽の手宮から札幌まで開通しました。

つまり、天皇がこの借来園を視察して休憩する場所として建てられたのがこの建物で、黒田清隆(くろだせいきたか)開拓判官によって「清華亭」と命名されました。天皇がお休みになられた記念碑が入り口に向かって右側の庭に建っています。

2. 清華亭の特徴

まず、この建物の特徴を一口で言うとしたら、『和洋折衷の古い建物』と言えます。

解説 和洋折衷とは、日本の伝統的な和風建築と欧米などの洋風建築が混ざりあったことを言います。

(1) 建物の外側を見てみましょう 当時の洋風建築

① 屋根の上に突如物のような物が取り付けられていますが、これは「煉瓦葺き(レンガ敷き)」と言って、このころの洋風建築のシンボルとなっていました。

② 玄関入り口の上部に十字架を模ったキングポストと呼ばれる構造物が、やはり取り付けられており、また、開拓使のシンボルである北極星の星の形り込みもあります。

③ 外壁は「下板見張り(かいたかみはり)」と言って、壁の一枚一枚がめ込み式になっていて隙間風などが入らず、今で言う寒地型住宅と言えるところです。

こうした作りは、時計台や豊平館・旧水山武蔵邸にも見られます。

(2) 建物の中に入って中の特徴を見てみましょう。 和洋折衷の部屋

① 約16畳間の洋間。窓は「ベイ・ウィンドウ」と言って日本建築にはなかった出窓がついていて、この窓は中央が両開き、両端が片開きになっていました。

② 壁から天井まで続いた漆喰大壁(しつこうおおい)で、そして天井が非常に高く中央にはシャンデリアがあり、釣り元には円形の飾り(メダイオン)が付き、柱頭の模様彫りがこまやかです。

解説 当時はまだ札幌には電気がなくてローソクでした。電気が点くのは1891(明治24)年のことです。

③ 和室は、16畳の広さがあり、日本の伝統的な書院風作りで、縁は京縁づくりと言って昔の日本の座敷などの縁に使われていました。

④ 玄関のたきや土台の石は、札幌南区の石山から採掘された札幌軟石が使われ、その他の建築材料も道産材が多く使われています。

(3) 庭敷の縁側から庭園を見てみましょう。 地形を利用した和洋折衷の庭園

明治13年、清華亭の建築と平行し、開拓使の指導者であったアメリカ人のケブロンに見出されたレイス・ペーマーの設計により、ゆるやかな起伏のある高低差を利用して洋風と和風がよく調和した庭園が造成されました。

洋風の芝生がある一方、日本古来の築山があり、シャクシトコ川から流れ出した清流がメムとなり、それを利用した池が中央に配置されていました。

明治天皇は、この庭敷から縁の下の縁側を通して庭園を眺められ、大変お気に召されたそうです。この時の庭園の広さは、およそ8万坪あり、様々な産業用の施設が配置されていました。

なお、ペーマーは、豊平館の庭園も設計し、その他にビール醸造に欠かせないホップやりんご栽培にも先鞭をつけた人物です。

解説 明治の30年代にこの建物は、民間に払い下げられましたが、後に保存会が買い取り、札幌市に寄附しました。しかし、戦争を挟んで荒れ果てた時代もありました。

1961 (昭和36)年に札幌市の有形文化財に指定され、昭和53年に大規模な復元工事がなされ現在に至っています。

